日本家系図学会　平成２３年度総会の報告

１　日時：平成２３年１１月５日（土)午後３時～５時
　　場所：東京都港区南麻布

２　議事内容　　出席者２６名、委任状を含む参加者人数は８０名で、総会は成立。

ほかに傍聴者・ゲスト（来賓として、徳川宗家第１９代目にあたる徳川家広氏などの出席もあった）等。

開会宣言及び会長挨拶の後に、議事に入る。

(1)経過報告及び議案　　以下は、会長による議事運営による

ア　最近までの動向と今後の事業予定

会誌発行　　今年は第５号を出し、いま第６号の準備中で近々発行。

役員会開催　本年８月２７日

今後とも他関係団体との連携強化、会員増強などに努める方向

イ　役員関係　　今回は２年任期での再選時期にきているので、８月の役員会を踏まえ、各役員の意向確認等を行った結果に基づき、役員案を総会に提示し、その承認をいただいた（常務理事以上の役員は下記のとおり）。

(2)経理審議　　22年度決算、23年度実行見込み、24年度予算関係の審議

……中長期的に赤字解消を目指すこととし、24年度は若干の会員増加と経費削減により若干の改善が見込まれるをという説明があり、了承。

以上、総会の所要時間は約３０分であった。

３　講演　講師：平野明夫（ひらの・あきお）さん

國學院大學博士（歴史学）。千葉県文書館勤務、國學院大學講師。

主要著書：『三河松平一族』『徳川権力の生成と発展』

テーマ：「正統性の生成―松平八代の歴史―」

起源地の松平村の地理的環境から説き起こし、有徳人松平太郎左衛門尉家（信重）に婿入りした初代親氏から広忠までの八代のうちに、侍身分→領主→政所執事伊勢氏の被官、と地位を上昇させてきた松平氏が、駿河今川氏の侵攻により当時の本宗の岩津家（親長の家）が壊滅的な被害を受け一頓挫するも、安城家の親忠が中心となって再建して、広忠・家康に至るが、そうした過程のなかで適宜、正統性の根拠をえて、地位を強化していった、という内容が具体的な三河の地理状況を踏まえて、話がなされた。

興味深い発表内容であり、それに応じて、松平氏の通字などについて質疑応答がなされた。

４　総会後の懇親会　　総会終了後に、場所を変えてテラス・モルチエで開催。講師・来賓も参加があり、有意義な懇談の場となった。

記

平成24年度　日本家系図学会役員（平成24年1月～平成26年12月末）

会　長	宝 賀　寿 男（東京都）	
副会長	岸　　芳　男（兼事務局長・東京都）	
副会長	本 郷　和 人（東京都）	
常務理事	井 澤　康 樹（岐阜県）	小佐々　　学（埼玉県）
	杉 本　圭 司（東京都）	早 瀬　晴 夫（愛知県）
	渡 辺　華 靖（東京都）	大 森　　一（東京都・事務局）

（以上）